

2016/6/24

## 柏の景気情報（平成28年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成28年5月分）

○ 調査期間 : 平成28年5月24日 ~ 平成28年6月9日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	81	51.9%
建設	44	23	52.3%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	24	58.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年5月の調査結果のポイント】

《業況DIはマイナス幅が拡大。先行きはやや好転も慎重な見方崩れず》

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲26.4)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△5.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.1(同▲37.5)、卸小売業▲60.0(同▲54.1)である。

【建設業】からは、「専門工事業のため、いわゆるアベノミクスや復興による受注は見込めない。さらに少子化、経済状況とも負の影響を受ける。今後の展開を変えざるをえない時期に来ていると思う。今年はどう生き延びるかを真剣に模索し、行動する年であると考えています。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「施工単価が下がっている。オリンピック関係の工事見積もりも出ているがかなり厳しい施工単価となっている。各提出書類も内容が細分化・複雑化し、事務処理をする人手が足りず忙しい毎日となっている。売上は前年度を維持できそうだが、事務処理等の設備投資も必要となり、採算が合わない業況となりそう。」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円高により輸出に大きな影響が出ている。」(織物業)、「4月29日～5月8日 得意先の休日が長かった影響で受注額が低調だった。中国関連の企業の売上減少が大きい。」(その他の金属製品製造業)、「自社の5月、6月の売上高は減となる傾向がある。資金繰り的には予断は許されない。5月末日までの支払い消費税は重い。」(印刷業)、「採算割れの加工品あれど、値下げ交渉まで至らず。」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料品はほぼ前年並みに推移している。特に紳士衣料は好調。」(その他の各種商品小売業)、「柏駅東口は大型店のオープンが続く、周辺も売上につながった。この流れを続けるためには、全体の協力・共同の盛り上げが必要。」(その他の各種商品小売業)、「今年の上半期内に流山市内と柏市内に出店してきた大型店の影響で、大変な1年になりそうである。他店との違い、レベルのアップ等長期的に自らも変革していかないと大変なことになりそうだと感じている。」(各種食料品小売業)、「ランチパスポートが好調で、売上が昨年より増加した。」(菓子・パン小売業)、「青果物の産地情報では、高温と雨の影響や干ばつ等の状況で入荷減少し、一部高値となっている品目もありますが、総体的には、野菜の主要品目にばらつきがあり、やや減少の動きをしています。果実も同様に入荷減、単価高の取引となっています。今後梅雨の季節に入りますが、不安定な天候から作付けの情報を取り、安定供給に努力したい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「契約数、量ともに微増ですが増えています。建築費は少し上昇しています。土地の値段は変わらず安定しています。」(不動産管理業)、「会員割引を通年実施しているので売上は伸びているが利益が大幅に落ち込んでいる。また、人手不足から4月より給与とアップした人件費もマイナス要因である。」(その他の飲食料品小売業)、「近年空き家問題が社会問題になっていますが、賃貸でも高齢者の一人住まいが増えてきている。買物弱者や孤独死を出さないよう行政と管理会社との日頃の情報共有や連携強化が必要であると感じている。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎熊本地震

各業種より、「熊本地震により、耐震補強への関心が高まっている。」(一般土木建築工事業)、「熊本地震の影響で水の納品制限があったが、今は正常になった。」(その他の各種商品小売業)、「当店の一般家庭用の畳表は熊本県産がほとんどなので、お客様が応援の気持ちで注文して下さるからか、売上が増加した。八代のいぐさ農家さんは無事植え付けが出来ているので、今年の畳表の仕入れは問題ない。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安(受注減少)

各業種より、「昨年末から続いている受注の冷え込みが継続している。機械加工業者からの新規売り込みも多く、弊社だけでなく全体的に仕事量が減少しているようである。」(その他の機械・同部品製造業)、「仕事量の先行き見通しがだんだん短くなってきている。材料の価格は落ち着く。」(電気工事業)「今後の見通しは不安定で元氣ありません。」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「4月末に大型SC、駅前にスーパーがOPENした事で、食品中心に客数が減少した。5月度も客の流れが変わり、食品は約15%～20%の客離れが発生した。」(その他の各種商品小売業)、「先月に引き続き大型SC開業の影響により、入館者数・売上ともに前年を下回って推移。免税売上も下降傾向。」(その他の各種商品小売業)、「流山に隣接する北西部に新規オープンした2件のスーパーとホームセンターが好調の様子。駐車場も広く店舗も洗練されていて競合店を上回っている。また、北部にオープンしたスーパーも大勢の来店があり、このため既存の競合店の客足が落ちている。」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
見通し	▲16.0	▲4.3	▲5.5	▲40.0	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年5月の業況についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲26.4)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。

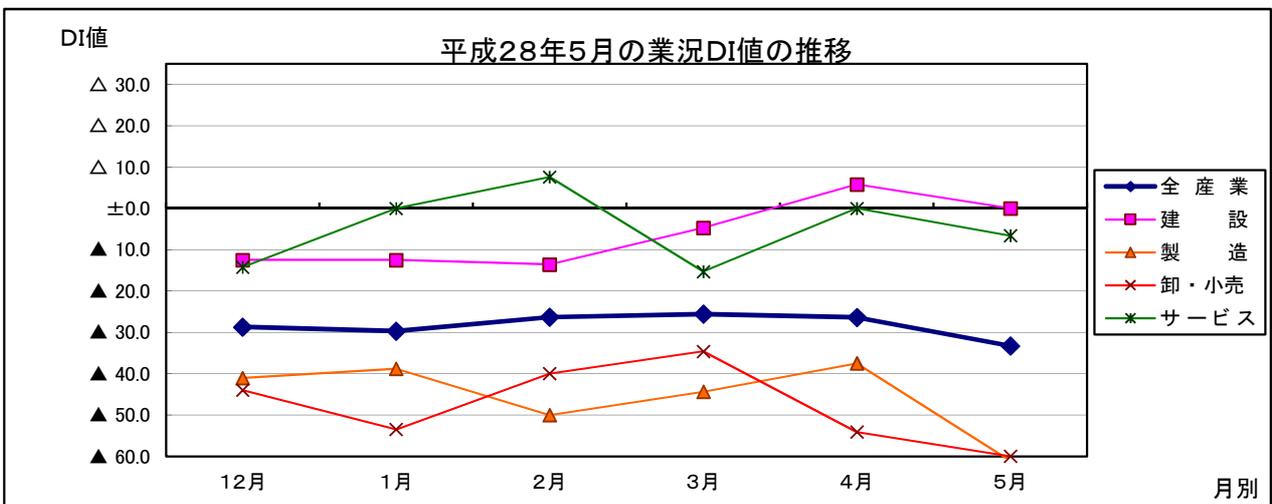
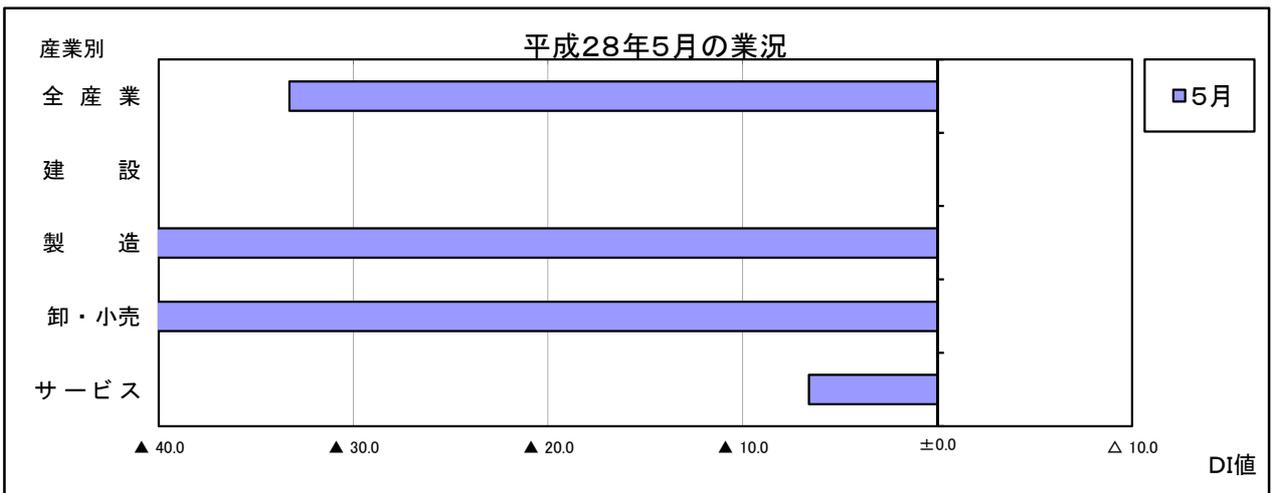
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△5.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.1(同▲37.5)、卸小売業▲60.0(同▲54.1)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.0(前月水準▲20.5)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲18.7)、サービス業▲6.6(同▲9.0)、卸小売業▲40.0(同▲41.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲4.3(同±0.0)である。

平成28年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲28.7	▲29.7	▲26.3	▲25.6	▲26.4	▲33.3	▲16.0(▲20.5)
建設	▲12.5	▲12.5	▲13.6	▲4.7	△5.8	±0.0	▲4.3(±0.0)
製造	▲41.1	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲37.5	▲61.1	▲5.5(▲18.7)
卸・小売	▲44.0	▲53.5	▲40.0	▲34.6	▲54.1	▲60.0	▲40.0(▲41.6)
サービス	▲14.2	±0.0	△7.6	▲15.3	±0.0	▲6.6	▲6.6(▲9.0)



【平成28年5月の売上についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(同▲20.5)であり、マイナス幅が6.6ポイント拡大した。

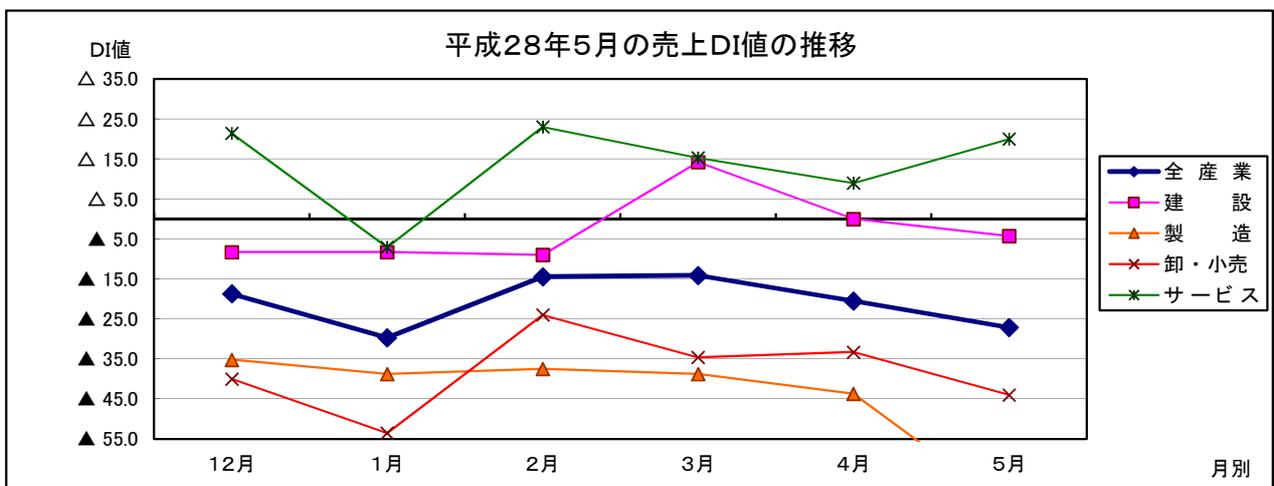
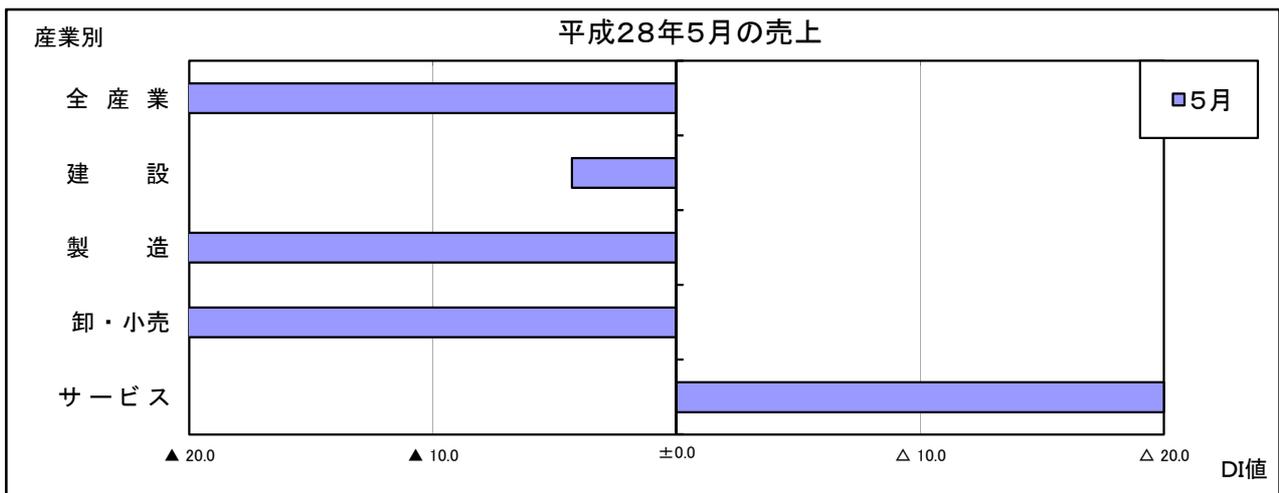
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△20.0(同△9.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲4.3(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に製造業▲72.2(同▲43.7)、卸小売業▲44.0(同▲33.3)であり、特に製造業は▲28.5ポイントと大幅に悪化した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△3.7(前月水準▲13.2)となり、マイナスからプラスに転じる見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△17.3(同△11.7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△16.6(同▲18.7)、サービス業△20.0(同▲9.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲28.0(同▲29.1)である。

平成28年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲18.7	▲29.7	▲14.4	▲14.1	▲20.5	▲27.1	△3.7(▲13.2)
建設	▲8.3	▲8.3	▲9.0	△14.2	±0.0	▲4.3	△17.3(△11.7)
製造	▲35.2	▲38.8	▲37.5	▲38.8	▲43.7	▲72.2	△16.6(▲18.7)
卸・小売	▲40.0	▲53.5	▲24.0	▲34.6	▲33.3	▲44.0	▲28.0(▲29.1)
サービス	△21.4	▲7.1	△23.0	△15.3	△9.0	△20.0	△20.0(▲9.0)



【平成28年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(前月水準▲22.0)となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大した。

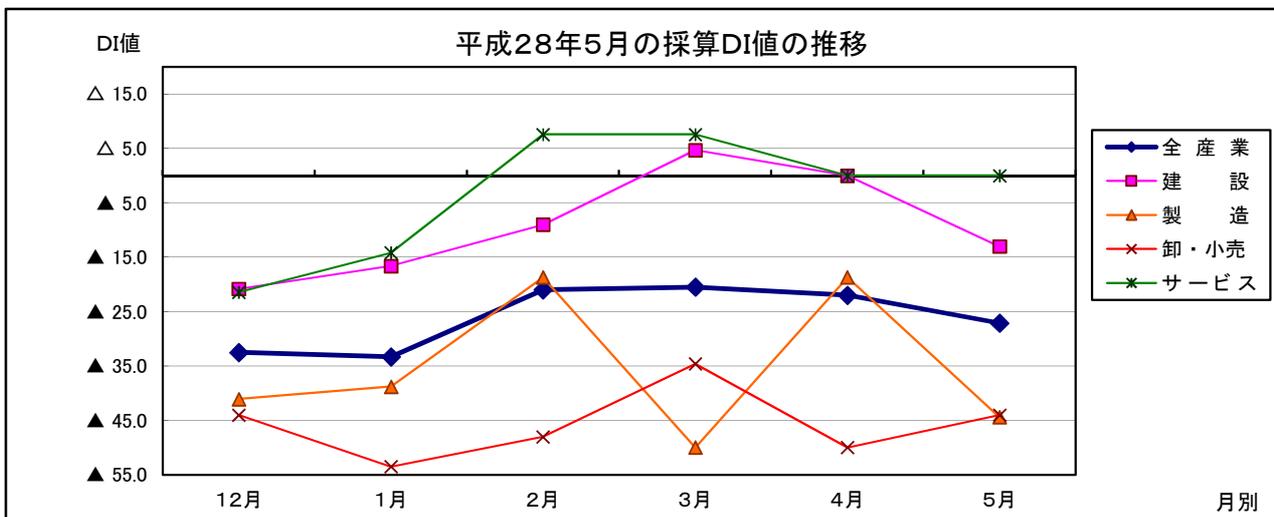
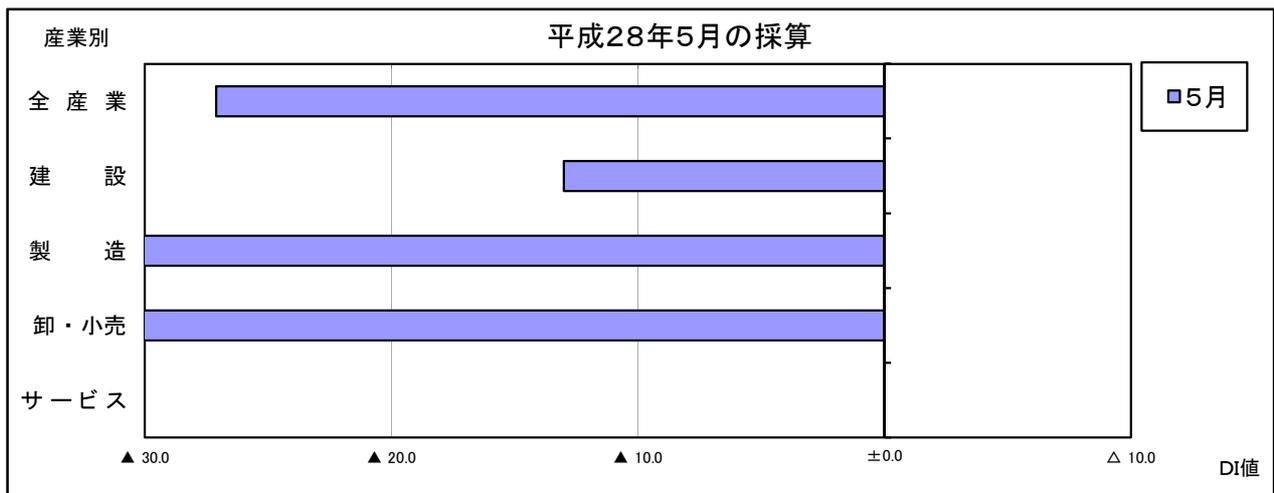
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲44.0(同▲50.0)である。変らない業種は、サービス業±0(同±0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲13.0(同±0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲44.4(同▲18.7)であり、▲25.7ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.5(前月水準▲27.9)であり、マイナス幅が14.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲43.7)、卸小売業▲36.0(同▲45.8)であり、特に製造業では△38.2ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲8.6(同▲5.8)である。

平成28年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲32.5	▲33.3	▲21.0	▲20.5	▲22.0	▲27.1	▲13.5(▲27.9)
建設	▲20.8	▲16.6	▲9.0	△4.7	±0.0	▲13.0	▲8.6(▲5.8)
製造	▲41.1	▲38.8	▲18.7	▲50.0	▲18.7	▲44.4	▲5.5(▲43.7)
卸・小売	▲44.0	▲53.5	▲48.0	▲34.6	▲50.0	▲44.0	▲36.0(▲45.8)
サービス	▲21.4	▲14.2	△7.6	△7.6	±0.0	±0.0	△6.6(±0.0)



【平成28年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲26.4)となり、マイナス幅が4.2ポイント縮小した。

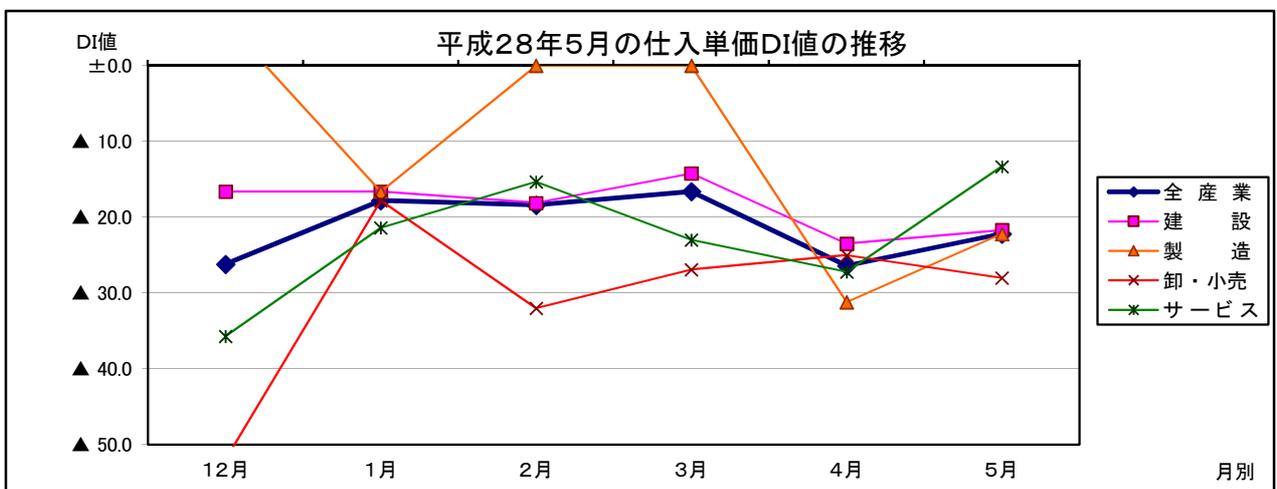
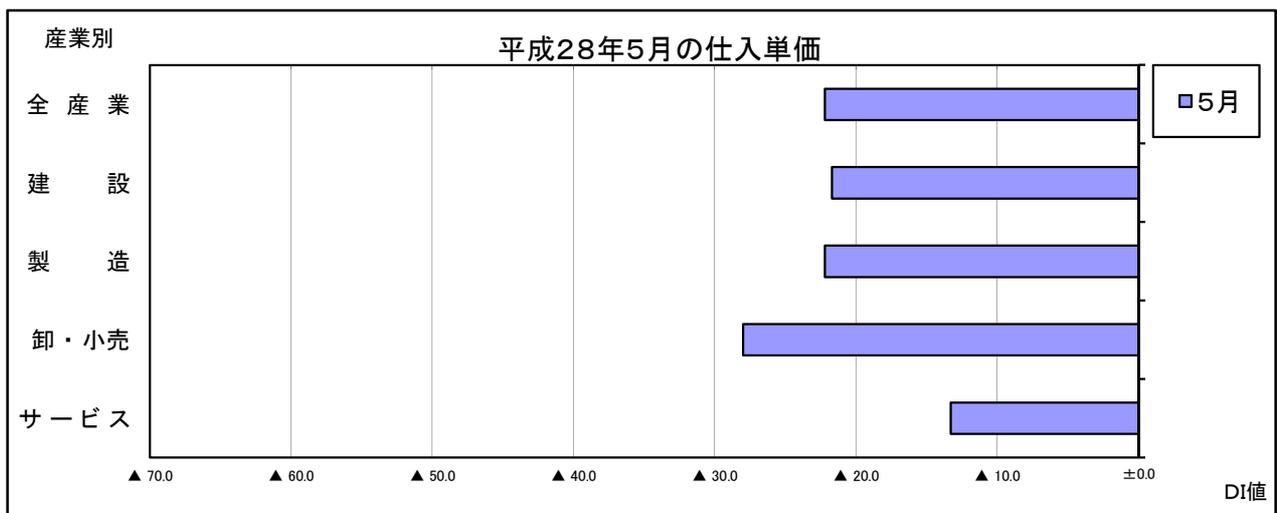
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.3(同▲27.2)、製造業▲22.2(同▲31.2)、建設業▲21.7(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲28.0(同▲25.0)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲17.6)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲27.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲16.6(同▲12.5)、卸小売業▲24.0(同▲20.8)、建設業▲13.0(同▲11.7)である。

平成28年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲26.2	▲17.8	▲18.4	▲16.6	▲26.4	▲22.2	▲19.7(▲17.6)
建設	▲16.6	▲16.6	▲18.1	▲14.2	▲23.5	▲21.7	▲13.0(▲11.7)
製造	△5.8	▲16.6	±0.0	±0.0	▲31.2	▲22.2	▲16.6(▲12.5)
卸・小売	▲52.0	▲17.8	▲32.0	▲26.9	▲25.0	▲28.0	▲24.0(▲20.8)
サービス	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.0	▲27.2	▲13.3	▲26.6(▲27.2)



【平成28年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.9(前月水準△7.3)となり、プラス幅が2.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△13.3(同△9.0)である。

マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲11.1(同▲12.5)である。

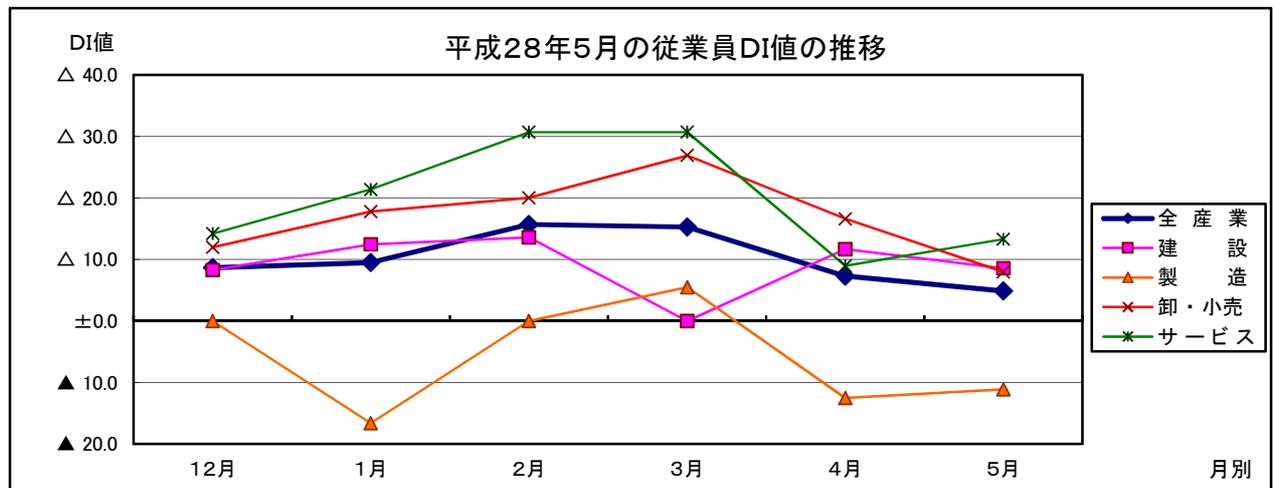
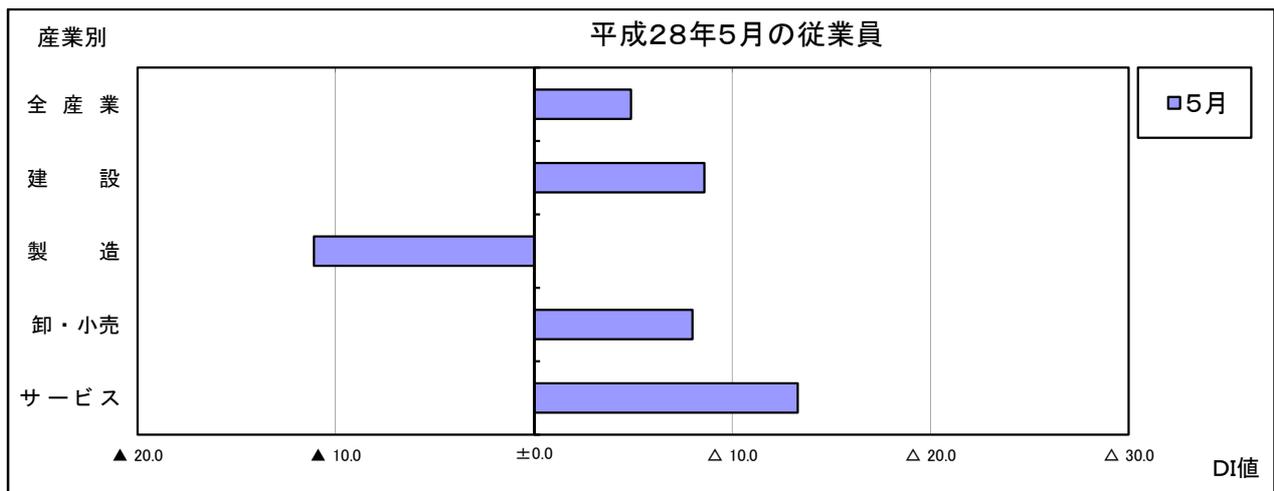
プラス幅が縮小した業種は、幅が大きい順に、卸小売業△8.0(同△16.6)、建設業△8.6(同△11.7)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.1(前月水準△13.2)であり、プラス幅が7.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△9.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△4.3(同△23.5)、卸小売業△12.0(同△20.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲6.2)である。

平成28年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△8.7	△9.5	△15.7	△15.3	△7.3	△4.9	△6.1(△13.2)
建設	△8.3	△12.5	△13.6	±0.0	△11.7	△8.6	△4.3(△23.5)
製造	±0.0	▲16.6	±0.0	△5.5	▲12.5	▲11.1	▲11.1(▲6.2)
卸・小売	△12.0	△17.8	△20.0	△26.9	△16.6	△8.0	△12.0(△20.8)
サービス	△14.2	△21.4	△30.7	△30.7	△9.0	△13.3	△20.0(△9.0)



【平成28年5月の資金繰りについての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲7.3)となり、マイナス幅が8.7ポイント拡大した。

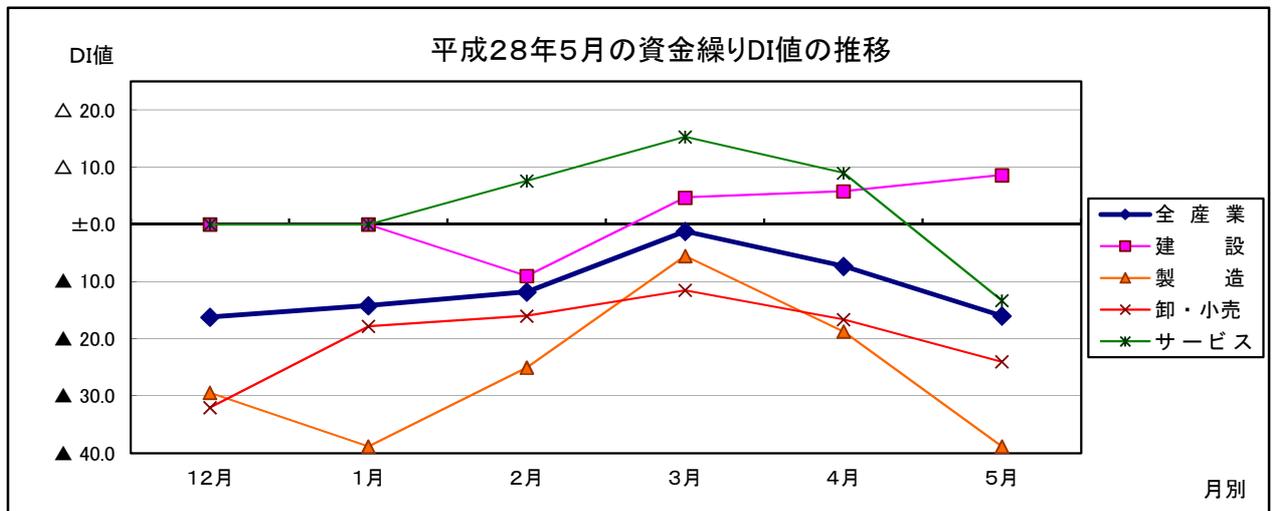
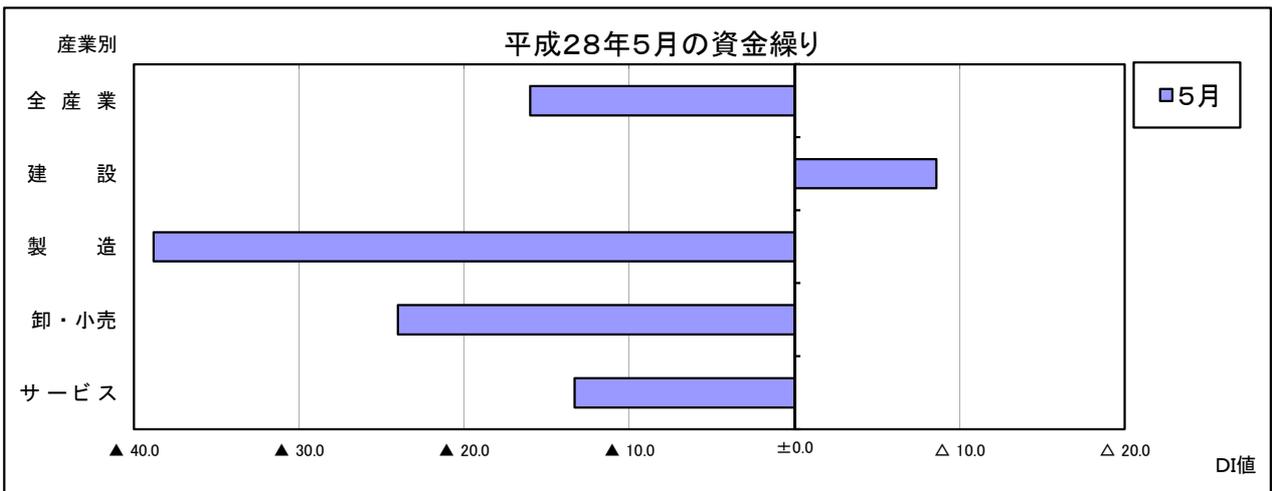
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△8.6(同△5.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲13.3(同△9.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲38.8(同▲18.7)、卸小売業▲24.0(同▲16.6)であり、特に製造業では▲20.1ポイントと大幅に悪化した。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲8.8)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲25.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△8.6(同△17.6)、サービス業±0.0(同△9.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲28.0(同▲25.0)である。

平成28年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲16.2	▲14.2	▲11.8	▲1.2	▲7.3	▲16.0	▲9.8(▲8.8)
建設	±0.0	±0.0	▲9.0	△4.7	△5.8	△8.6	△8.6(△17.6)
製造	▲29.4	▲38.8	▲25.0	▲5.5	▲18.7	▲38.8	▲16.6(▲25.0)
卸・小売	▲32.0	▲17.8	▲16.0	▲11.5	▲16.6	▲24.0	▲28.0(▲25.0)
サービス	±0.0	±0.0	△7.6	△15.3	△9.0	▲13.3	±0.0(△9.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.1	△ 3.7	▲ 27.1	▲ 13.5	▲ 22.2	▲ 19.7	△ 4.9	△ 6.1
建設	▲ 4.3	△ 17.3	▲ 13.0	▲ 8.6	▲ 21.7	▲ 13.0	△ 8.6	△ 4.3
製造	▲ 72.2	△ 16.6	▲ 44.4	▲ 5.5	▲ 22.2	▲ 16.6	▲ 11.1	▲ 11.1
卸・小売	▲ 44.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 36.0	▲ 28.0	▲ 24.0	△ 8.0	△ 12.0
サービス	△ 20.0	△ 20.0	±0.0	△ 6.6	▲ 13.3	▲ 26.6	△ 13.3	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 33.3	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 9.8
建設	±0.0	▲ 4.3	△ 8.6	△ 8.6
製造	▲ 61.1	▲ 5.5	▲ 38.8	▲ 16.6
卸・小売	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 24.0	▲ 28.0
サービス	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	±0.0

【平成28年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	熊本地震により、耐震補強への関心が高まっている。	熊本地震 耐震補強 工事需要高まる	一般土木建築工事業
	専門工事業のため、いわゆるアベノミクスや復興による受注は見込めない。さらに少子化、経済状況とも負の影響を受ける。今後の展開を変えざるをえない時期に来ていると思う。今年はどう生き延びるかを真剣に模索し、行動する年であると考えています。	アベノミクス 復興需要 少子化 先行き不安	石工れんがタイルブロック工事業
	仕事量の先行き見通しがだんだん短くなってきている。材料の価格は落ち着く。	先行き不安 仕入単価安定	電気工事業
	施工単価が下がっている。オリンピック関係の工事見積もりも出ているがかなり厳しい施工単価となっている。各提出書類も内容が細分化・複雑化し、事務処理をする人手が足りず忙しい毎日となっている。売上は前年度を維持できそうだが、事務処理等の設備投資も必要となり、採算が合わない業況となりそう。	施工単価下落 人手不足 設備投資先行き不安	その他の職別工事業
	当店の一般家庭用の畳表は熊本県産がほとんどなので、お客様が応援の気持ちで注文してくださるからか、売上が増加した。八代のいぐさ農家さんは無事植え付けが出来ているので、今年の畳表の仕入れは問題ない。	熊本地震 売り上げ増加	内装工事業
製造業	サミットの経済効果が柏までやって来る事を期待します。	サミット 経済効果	印刷業
	円高により輸出に大きな影響が出ている。	円高	織物業
	昨年末から続いている受注の冷え込みが継続している。機械加工業者からの新規売り込みも多く、弊社だけでなく全体的に仕事量が減少しているようである。	受注減少	その他の機械・同部品製造業
	4月29日～5月8日 得意先の休日が長かった影響で受注額が低調だった。中国関連の企業の売上減少が大きい。	ゴールデンウィーク 受注減少	その他の金属製品製造業
	自社の5月、6月の売上高は減となる傾向がある。資金繰り的には予断は許されない。5月末日までの支払い消費税は重い。採算割れの加工品あれど、値下げ交渉まで至らず。	資金繰り 消費税 採算割れ	印刷業 一般産業用機械・装置製造業
卸小売	4月末に大型SC、駅前スーパーがOPENした事で、食品中心に客数が減少した。5月度も客の流れが変わり、食品は約15%～20%の客離れが発生した。衣料品はほぼ前年並みに推移している。特に紳士衣料は好調。熊本地震の影響で水の納品制限があったが、今は正常になった。	競争激化 競合店出店 売上減少(食料品) 熊本地震	その他の各種商品小売業
	先月に引き続き大型SC開業の影響により、入館者数・売上ともに前年を下回って推移。免税売上も下降傾向。	競争激化 競合店出店 売上減少 インバウンド	その他の各種商品小売業
	柏駅東口は大型店のオープンが続き、周辺も売上につながった。この流れを続けるためには、全体の協力・共同の盛り上げが必要。	競争激化 競合店出店	その他の各種商品小売業
	今年の上半期内に流山市内と柏市内に出店してきた大型店の影響で、大変な1年になりそうである。他店との違い、レベルのアップ等長期的に自らも変革していかなないと大変なことになりそうだと感じている。	競争激化 競合店出店 出店ラッシュ	各種食料品小売業
	ランチパスポートが好調で、売上が昨年より増加した。	売り上げ増加 クーポン(ランチパスポート)	菓子・パン小売業
サービス業	青果物の産地情報では、高温と雨の影響や干ばつ等の状況で入荷減少し、一部高値となっている品目もありますが、総体的には、野菜の主要品目にばらつきがあり、やや減少の動きをしています。果実も同様に入荷減、単価高の取引となっています。今後梅雨の季節に入りますが、不安定な天候から作付けの情報を取り、安定供給に努力したい。	天候不順 仕入単価高騰 出荷減少(野菜・果実)	食料・飲料卸売業
	契約数、量ともに微増ですが増えています。建築費は少し上昇しています。土地の値段は変わらず安定しています。今後の見通しは不安定で元気ありません。	受注増加 仕入単価高騰 先行き不安	不動産管理業
	流山に隣接する北西部に新規オープンした2件のスーパーとホームセンターが好調の様子。駐車場も広く店舗も洗練されていて競合店を上回っている。また、北部にオープンしたスーパーも大勢の来店があり、このため既存の競合店の客足が落ちている。会員割引を本年実施しているので売上は伸びているが利益が大幅に落ち込んでいる。また、人手不足から4月より給与アップした人件費もマイナス要因である。	競争激化 出店ラッシュ 競合店出店 売り上げ増加(利幅減少) 人件費高騰 人手不足	その他の飲食料品小売業
近年空き家問題が社会問題になっていますが、賃貸でも高齢者の一人住まいが増えてきている。買物弱者や孤独死を出さないよう行政と管理会社との日頃の情報共有や連携強化が必要であると感じている。	空き家問題 高齢化 買物弱者 行政との連携	不動産賃貸・管理業	

## ◎熊本地震

各業種より、「熊本地震により、耐震補強への関心が高まっている。」(一般土木建築工事業)、「熊本地震の影響で水の納品制限があったが、今は正常になった。」(その他の各種商品小売業)、「当店の一般家庭用の畳表は熊本県産がほとんどなので、お客様が応援の気持ちで注文してくださるからか、売上が増加した。八代のいぐさ農家さんは無事植え付けが出来ているので、今年の畳表の仕入れは問題ない。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

## ◎先行き不安(受注減少)

各業種より、「昨年末から続いている受注の冷え込みが継続している。機械加工業者からの新規売り込みも多く、弊社だけでなく全体的に仕事量が減少しているようである。」(その他の機械・同部品製造業)、「仕事量の先行き見通しがだんだん短くなってきている。材料の価格は落ち着く。」(電気工事業)「今後の見通しは不安定で元気ありません。」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

## ◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「4月末に大型SC、駅前にスーパーがOPENした事で、食品中心に客数が減少した。5月度も客の流れが変わり、食品は約15%~20%の客離れが発生した。」(その他の各種商品小売業)、「先月に引き続き大型SC開業の影響により、入館者数・売上ともに前年を下回って推移。免税売上も下降傾向。」(その他の各種商品小売業)、「流山に隣接する北西部に新規オープンした2件のスーパーとホームセンターが好調の様子。駐車場も広く店舗も洗練されていて競合店を上回っている。また、北部にオープンしたスーパーも大勢の来店があり、このため既存の競合店の客足が落ちている。」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

## 平成28年5月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI-LOBO」が▲22.8で柏の方がマイナス幅が10.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲17.6で柏の方がマイナス幅が9.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲19.0で柏の方がマイナス幅が8.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲22.4で柏の方がマイナス幅が0.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.9に対し、「CCI-LOBO」が△14.1で柏の方がプラス幅が9.2ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲12.5で柏の方がマイナス幅が3.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

# 平成28年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 33.3	 ±0.0	 ▲ 61.1	 ▲ 60.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 22.8	 ▲ 21.0	 ▲ 13.2	 ▲ 36.2	 ▲ 20.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.1	 ▲ 4.3	 ▲ 72.2	 ▲ 44.0	 △ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.6	 ▲ 17.7	 ▲ 5.1	 ▲ 35.9	 ▲ 14.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 27.1	 ▲ 13.0	 ▲ 44.4	 ▲ 44.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 19.0	 ▲ 17.3	 ▲ 11.4	 ▲ 31.5	 ▲ 20.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.2	 ▲ 21.7	 ▲ 22.2	 ▲ 28.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 22.4	 ▲ 20.1	 ▲ 12.5	 ▲ 27.1	 ▲ 29.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 4.9	 △ 8.6	 ▲ 11.1	 △ 8.0	 △ 13.3
CCI-LOBO	 △ 14.1	 △ 14.3	 △ 4.1	 △ 18.8	 △ 22.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 16.0	 △ 8.6	 ▲ 38.8	 ▲ 24.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 12.5	 ▲ 8.3	 ▲ 7.1	 ▲ 23.1	 ▲ 12.5

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

## (5月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年5月21日～6月9日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数81件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲28.7	▲12.5	▲41.1	▲44.0	▲14.2
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
見通し	▲16.0	▲4.3	▲5.5	▲40.0	▲6.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

### 「柏市」の業況

業況D Iはマイナス幅が拡大。先行きはやや好転も慎重な見方崩れず。

5月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲26.4)となり、マイナス幅が6.9ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△5.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.1(同▲37.5)、卸小売業▲60.0(同▲40.0)である。

▲54.1)である。

【建設業】からは、「専門工事業のため、いわゆるアベノミクスや復興による受注は見込めない。さらに少子化、経済状況とも負の影響を受ける。今後の展開を変えざるをえない時期に来ていると思う。今年はどう生き延びるかを真剣に模索し、行動する年であると考えています。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「施工単価が下がっている。オリンピック関係の工事見積もりも出ているがかなり厳しい施工単価となっている。各提出書類も内容が細分化・複雑化し、事務処理をする人手が足りず忙しい毎日となっている。売上は前年度を維持できそうだが、事務処理等の設備投資も必要となり、採算が合わない業況となりそう。」などのコメントが寄せられた。

業、「採算割れの加工品あれど、値下げ交渉まで至らず。」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

少し上昇。土地の値段は変わらず安定。」(不動産管理業)、「会員割引を通常実施しているが、売上げは伸びていないが、利益が大幅に落ち込んでいる。また、人手不足から4月より給与アップした人件費もマイナス要因である。」(その他の飲食料品小売業)、「賃貸物件の高齢者の一人住まいが増えてきている。買物弱者や孤独死を出さないよう行政と管理会社との日頃の情報共有や連携強化が必要であると感じている。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

### 5月の景気キーワード

#### ◎熊本地震

各業種より、「熊本地震により、耐震補強への関心が高まっている。」(一般土木建築工事業)、「熊本地震の影響で水の納品制限があったが、今は正常になった。」(その他の各種商品小売業)、「当店の一般家庭用の畳表は熊本県産が殆どなので、お客様が応援の気持ちで注文して下さるからか、売上げが増加。いぐさ農家は無事植え付けが出来ているので、今年の畳表の仕入は問題ない。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

#### CCI・LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI・LOBO」が▲22.8で柏の方がマイナス幅が10.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。

【製造業】からは、「円高により輸出に大きな影響が出ている。」(織物業)、「4月29日～5月8日と得意先の休日が長かった影響で受注額が低調だった。中国関連の企業の売上減少が大きい。」(その他の金属製品製造業)、「自社の5、6月の売上高は減となる傾向がある。資金繰り的には予断は許さない。5月末日までの支払い消費税は重い。」(印刷業)、「印刷費は微増、建築費は

【卸小売業】からは、「衣料品はほぼ前年並みに推移している。特に紳士衣料は好調。」(その他の各種商品小売業)、「柏駅東口は大型店のオープンが続く、周辺も売上に繋がった。この流れを続けるためには、全体の協力・共同の盛り上げが必要。」(その他の各種商品小売業)、「今年の上半期内に流山市内と柏市内に出店してきた大型店の影響で、大変な1年になりそうである。他店との違い、レベルのアップ等長期的に自らも変革していかないと大変なことになりそうだと感じている。」(各種食料品小売業)、「ランチ・スポーツが好調で、売上が昨年より増加した。」(菓子・パン小売業)、「青果物の産地情報では、高温と雨の影響や干ばつ等の状況で入荷減少し、一部高値となっている。果実も同様に入荷減、単価高の取引となっています。今後梅雨の季節に入りますが、不安定な天候から作付けの情報を取り、安定供給に努力したい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安受注減少  
各業種より、「昨年末から

CCI・LOBOとの比較  
全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI・LOBO」が▲22.8で柏の方がマイナス幅が10.5ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成28年5月17日～23日

調査対象：全国の423商工会議所が2949企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、横ばい圏内の動き。熊本地震の影響もあり、慎重な見方が広がる

5月の全産業合計の業況DIは、▲22.8と、前月から▲1.8ポイントの悪化。熊本地震の影響が大きく、ゴールデンウィークの観光需要の落ち込みをはじめ、小売業やサービス業、製造業など広く業況の押し下げ要因となった。金融市場の不安定な動きに対する懸念は和らぎつつあるものの、受注機会の損失や人件費上昇など人手不足の影響拡大、消費低迷の長期化、新興国経済の減速などから、中小企業のマインドは依然として鈍く、横ばい圏内の動きが続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲23.8（今月比▲1.0ポイント）と悪化を見込むものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。公共工事の早期執行や設備投資の持ち直し、夏の賞与に伴う個人消費の伸びへの期待感が伺える。一方で、熊本地震の影響や円高進行によるインバウンド需要の鈍化など消費の一段の悪化、慢性的な人手不足や価格転嫁の遅れなどへの懸念が企業

のマインドを鈍らせており、中小企業においては、先行きへの慎重な姿勢を崩していない。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「年度が替わり、手持ち工事のない企業が増えてきている。公共工事の早期発注に期待している」（一般工事業）、「熊本地震からの復旧工事では、業界の慢性的な人手不足の影響が大きく、年内にどの程度復旧できるかの見通しは立たない。また復旧が本格化すれば、資材価格の上昇も懸念される」（建築工事業）、「賃貸物件を建て直し、新たな店子に貸し出すなど、業務が拡大している。今年、新しく事務所を取得する予定である」（建築工事業）

【製造業】「新店舗の開店やメディアを使った宣伝効果によって、売上は好調が続いている。弁当工場を新設する準備も進めており、製造部門の人材確保や、販路の開拓が急務となっている」（食料品製造業）、「部品の半導体の仕入先が熊本地震で被災した。5月までは在庫の納入を

受けていたが、6月以降は供給が止まる。代替の仕入先を確保しなければならぬ」（電子応用装置）、「熊本地震の影響により、納入先である自動車メーカーの製造ラインが休止し、生産量が減少した。しかし、来月には回復する見通し」（自動車・附属品製造業）

【卸売業】「地方スーパーでの衣料品売上が減少している。早くも夏物衣料の値引きセールを始めるところがあり、当社の採算への影響を懸念している」（繊維品卸売業）、「仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁し、粗利益率が0.3%増加した。また、市場産品による新商品を発売したところ、好評を得ている」（食料・飲料卸売業）

た。連休明けも客数は伸びず、売上は減少した。また、食材の仕入価格が上昇し、採算も悪い」（レストラン業）、「客室をリニューアルしたこともあり、ゴールデンウィーク期間中の宿泊者数はここ数年では最高となった」（旅館業）、「熊本地震により観光客が減少し、売上、採算ともに悪化した。しばらくはこの状態が続くと見ている」（旅行業）

【小売業】「熊本地震以降、個人消費は更に厳しくなっている。来店者数は減少し、売上、採算ともに前年を下回っている」（百貨店）、「ゴールデンウィークの客数は、イベントや新規開店した店舗の集客効果もあり、順調。商店街全体の売上高も前年実績を超えた」（商店街）

【サービス業】「大型連休中は、例年より客数が少なかつ

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲17.2	▲15.4	▲15.5	▲17.2	▲30.8	▲7.7
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
3月	▲23.6	▲17.8	▲18.4	▲25.9	▲41.8	▲14.6
4月	▲21.0	▲18.8	▲16.2	▲31.3	▲32.0	▲12.7
5月	▲22.8	▲21.0	▲13.2	▲25.1	▲36.2	▲20.4
見通し	▲23.8	▲19.8	▲14.0	▲31.8	▲34.8	▲22.7